

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	国際学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 原則として短期留学（約1ヶ月）、中期留学（海外インターシップ含む、約4ヶ月）、長期留学（約1年または半年）のいずれかのプログラムに学生を参加させ、外国人留学生を除く全学部生を留学させる。	→ 1. 指標：外国人留学生を除く、学年毎の留学参加率（平均） 評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D	D			
2. 交換留学生を25名以上受け入れる。	→ 2. 指標：交換留学生25名に対する達成率 評価基準：95%（24名）以上…評価A、90%（23名）以上…評価B、85%（22名）以上…評価C、85%未満…評価D	A			
3. 学部独自の中期留学先として中国、韓国、北米からそれぞれ1校以上を開拓する。	→ 3. 指標：学部独自の中期留学先を確保した校数 評価基準：3校以上…評価A、2校…評価B、1校…評価C、なし…評価D	A			
		☆			
2011年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2010	2011	2012	2013
	→				
	→				

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 （方針明示の有無） いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 明示している ○ 明示していない （方針）原則として短期留学（約1ヶ月）、中期留学（約4ヶ月）、長期留学（約1年または半年）のいずれかのプログラムに参加するよう、学生に指導し、外国人留学生を除く全員が留学することを基本方針とした。 （説明）英語、中国語、朝鮮語の運用能力（実践的なコミュニケーション能力と、読解及び文章表現能力）を育成し、また異文化に対する感受性と理解を深めることを目的として、春学期、秋学期あるいは通年に、原則として短期留学（約1ヶ月）、中期留学（約4ヶ月）、長期留学（約1年または半年）のいずれかのプログラムに参加することを必須にすることを国際学部に明記した。
	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 （説明） 1. 2011年5月1日現在、短期留学（約1ヶ月）20名、中期留学（約4ヶ月）128名（内9名は海外インターシップ）、長期留学（約1年）46名がプログラムに参加する予定。 2. 英語による授業を78科目開講した。 3. 交換留学生を24名受け入れた。 4. 国際基礎科目第1類（入門的科目）に、国際地域理解入門A、国際地域理解入門B、国際学入門を1年次の必修科目として開講し、それを受講することにより国際理解を深めた。 また、学部独自の中期留学先として中国、韓国、北米からそれぞれ1校を開拓した。
★ その他	

《評価指標データ》

（特定指標データ）本項目は数量的なデータによる評価（現状分析）が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【国際学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関					—	1	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国					—	1	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国					—			
		外国人留学生	正規	人					29	64	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人					24		・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%					10.2	10.5	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%					8.5		
		その他(セミナー等による受け入れ)	人					—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国					—		累計数	
		人数	長期	人					0		・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人					13		・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%					0.0		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%						4.6				
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人					0		・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人					1		・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人					0		・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人					61		・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人					0		・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%					32.4			

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

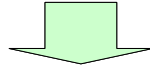
(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
★小項目 7.0.2	交換留学生を24名受け入れ、一般学生と交換留学生が同じ授業を受けることによりお互いの刺激になった。また、学部独自の中期留学の設定により、大学全体の留学から漏れた学生をフォローすることができた。またS A F (Study Abroad Foundation)による認定留学を設定した。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

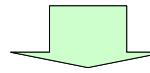
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
★小項目 7.0.2	今後も交換留学生を学部として積極的に受け入れる。また中期留学については、2011年度の留学実績をみながら次年度以降の学部独自の中期留学先の開拓方針を取り決める。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	原則として2年以降に留学するため、2010年度中の留学はない。
★小項目 7.0.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	留学については2010～2011年度にかけて、長期留学に46名、中期留学に128名(内9名は海外インターシップ)、短期留学に20名が参加あるいは参加予定である。留学については行き先によって順次決定していく。
★小項目 7.0.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○学部発足2年目でありまだ数字的な評価は早いと思われませんが11年度で各留学参加者の予定もあることから、D評価は厳しすぎ、C評価でもよいのではないのでしょうか。引き続き今後の努力に期待します。交換留学生の25名が達成されていることは大変優れています。ただ、この25名の根拠が外からは見えないので何らかの説明があったほうが良いのではないのでしょうか。また、中期留学先の海外の大学名も明記されたほうが具体的になってよいのではないのでしょうか。

【学内委員】

- 国際交流に関しても、進捗管理に量的な基準を取り入れ、達成度のより客観的な評価に心がけています。
- 国際学部だけに学部独自の、しかも大変多様な国際交流プログラムが用意されています。
- 国際交流の方針と説明の内容が入れ替わっている気がします。何を目的として全員留学させるかという内容が方針ではと思われます。
- 海外からの受け入れ学生数は当初の目標を上回っていることを評価します。
- 順調に、また確実に国際交流が進んでいることが伺えます。目標の達成に期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- 原則2年時に海外留学するため、2010年度は1年生のみの在学であり、海外留学の実績がほとんどないためD評価となった。
- 交換留学生25名受け入れを目標としたのは、外国人留学生受け入れを入学定員300名の1割30名を目標としているが、その外国人留学生と交換留学生をあわせ計50名程度を想定した。しかし国際教育・協力委員会にて、本件については補助金の関連で、2011年度以降から完成年次までは国際学部では受け入れをしないこととなった。
- 次年度、中期留学先の大学名を明記する。
- 次年度、国際交流の方針と説明の内容を入れ替えて記述する。